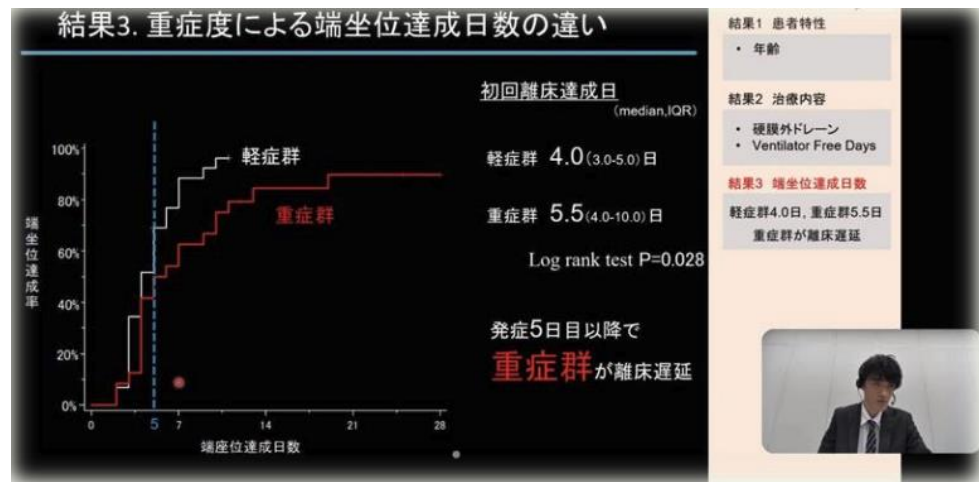


学術チームの発足とその効果

臨床研究でつまづきやすいポイント



- ・ RQ*に変換できない
- ・ 研究デザインを組めない
- ・ データ収集の方法が不明
- ・ 抄録の作成
- ・ 発表資料(ポスター, スライド)

* RQ : Reseach Question

臨床研究を実践できるのは一部のスタッフに限られる



臨床研究、学会発表の推進を目的に**学術チーム**を発足

学術チームの活動

研究フローチャートの作成 (研究の実施や指導を円滑に実施するための指針)

1. 研究内容の相談

研究相談会

2. 研究計画書の作成

3. 倫理審査申請書の作成

4. 抄録作成

5. 発表資料の作成

6. 予演会の実施

7. 学会発表の方法(質疑応答, 発表方法など)



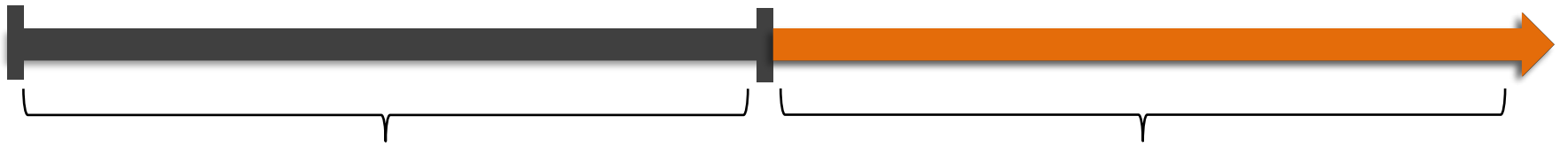
- ・ 各研究の進捗状況の共有
- ・ 疑問の解決に向けて意見交換

学術チーム活動の効果判定を実施

2016年度

学術チーム発足

2023年度



学術チーム発足前
(2016~2019)

VS.

学術チーム発足後
(2020~2023)

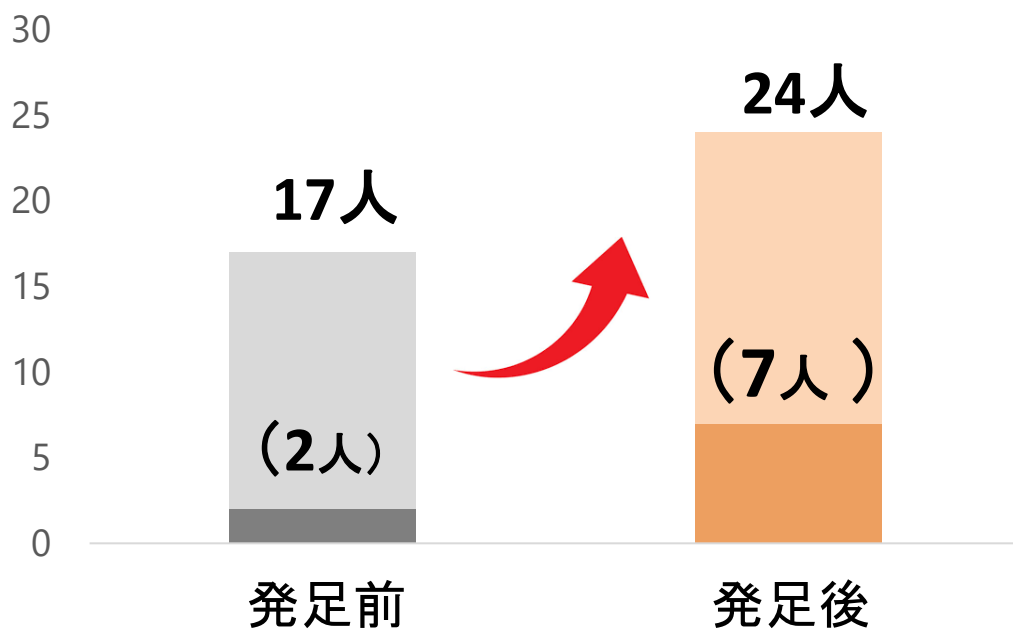
【調査項目】学会発表数および発表者数,

学会発表未経験者の発表数, アンケート調査

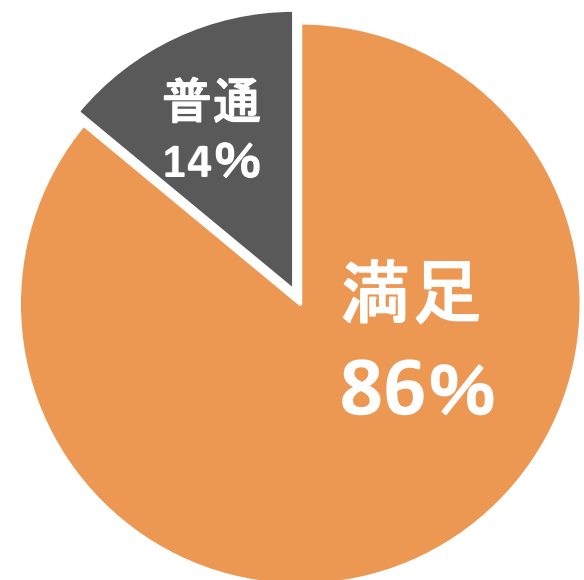
学術チームの活動の結果

発足前後での学会発表者数の比較

※()は学会発表を初経験したスタッフ数



チーム活動全体の満足度



特に効果的であった指導内容として

「研究計画の作成」「抄録の作成」「発表資料の作成」が選択された

まとめ

- ・臨床研究と学会発表の推進を目的に研究支援チームを発足した
- ・学会発表を初経験するスタッフが増加し、活動に対して高い満足度が得られた